
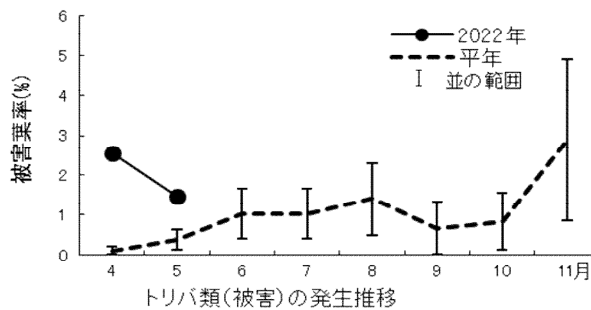
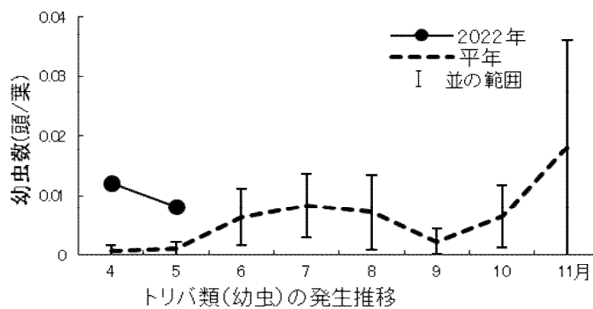


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① トリバ類		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量 (平年比)	やや多	

予報の根拠


平年の発生量の推移 (↗)

調査結果



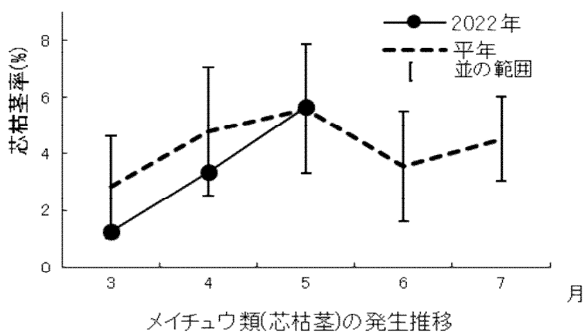
防除のポイント

発生初期の防除が有効であるので、被害葉が出はじめたら、薬剤散布する。

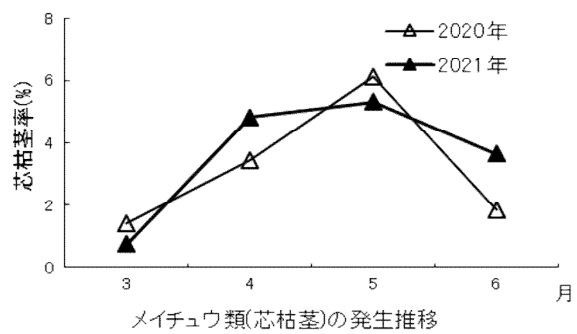
作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	↓	
		6 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		芯枯茎率の平年の発生量の推移 ( ↓ )	

調査結果

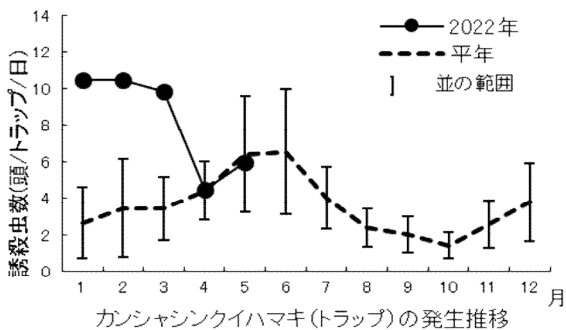
今期と平年の推移



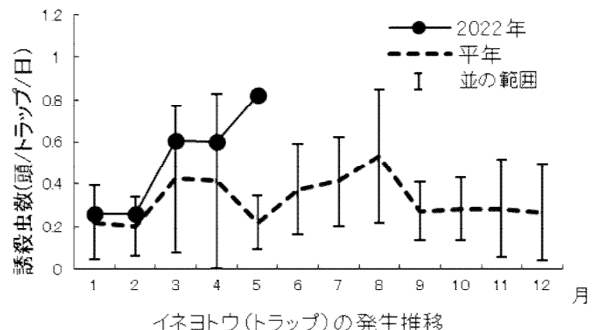
過去 2 年の推移



トラップ調査 (カンシャシンクイハマキ)




トラップ調査 (イネヨトウ)



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類はすべて (55/55頭) カンシャシンクイハマキだった。
- ・ 病害虫防除員の報告 (メイチュウ類) : 少発生 (南・北大東村) 中発生 (伊是名村)

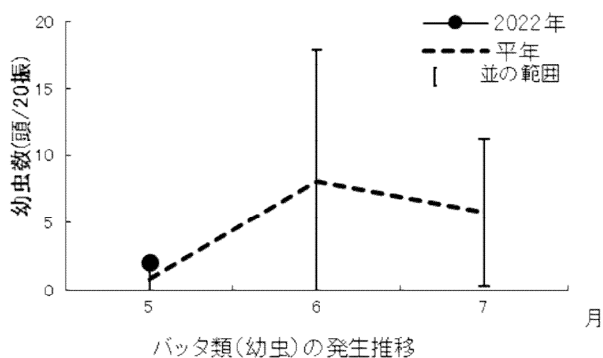
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

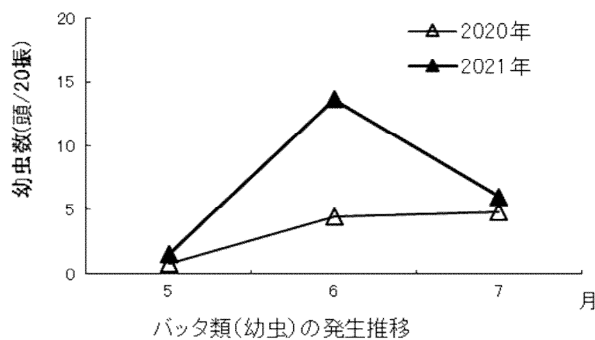
作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	② バッタ類		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



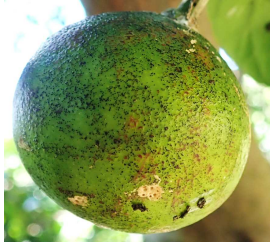
過去 2 年の推移



- ・病害虫防除員の報告：少発生（北大東村）

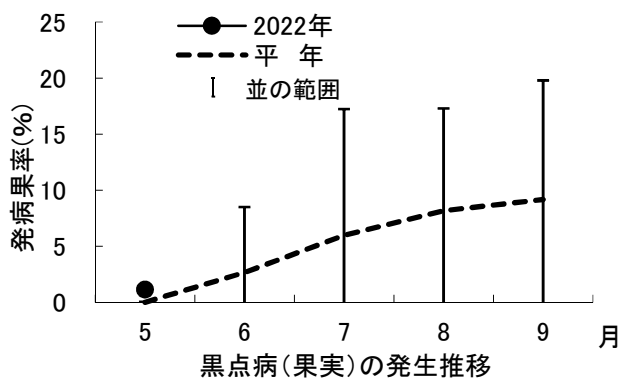
防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・幼虫期の防除が効果的なので、6月にほ場周辺の見回りをを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

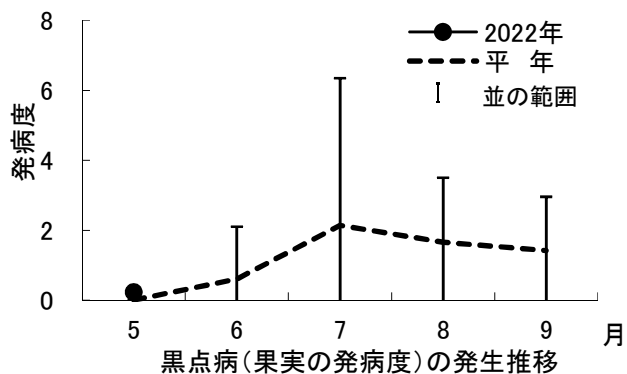
作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① 黒点病		
調査結果	5 月の発生量（平年比）	多	
予報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗） 一部ほ場で発生がみられた	

調査結果

（発病果率：今期と平年の推移）




（果実の発病度：今期と平年の推移）



・発生ほ場率40.0%（平年2.8%）

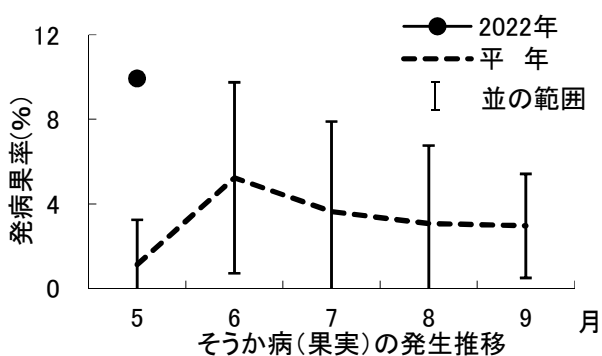
防除のポイント

- ・周辺の防風樹も含め、枯れ枝は除去する。
- ・ほ場内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② そうか病		
調査結果	5 月の発生量（平年比）	多	
予報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗） 一部ほ場で発生がみられた	

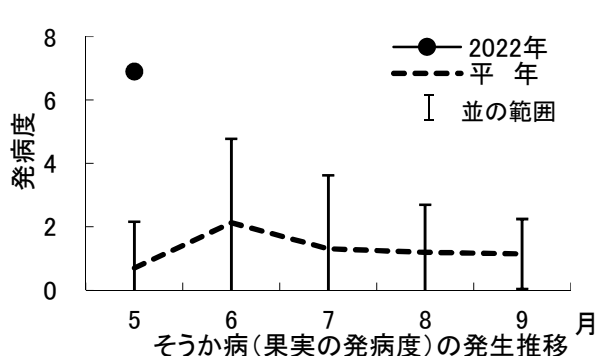
調査結果

（発病果率：今期と平年の推移）

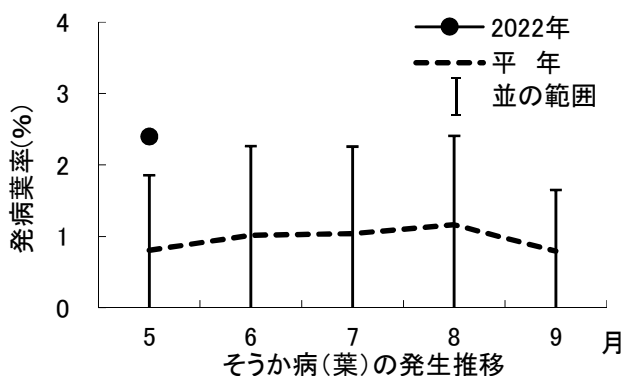


・発生ほ場率40.0%（平年22.9%）

（果実の発病度：今期と平年の推移）

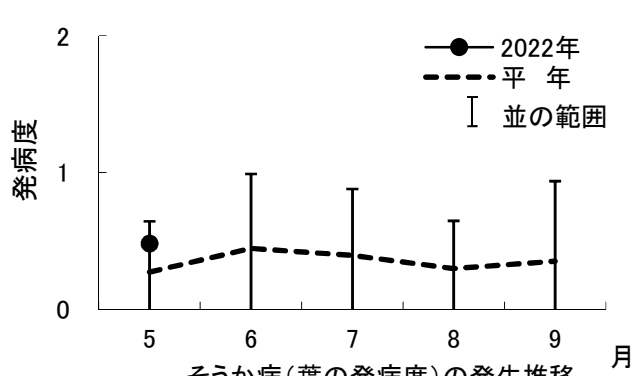


（発病葉率：今期と平年の推移）



・発生ほ場率80.0%（平年39.0%）

（葉の発病度：今期と平年の推移）




防除のポイント

- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

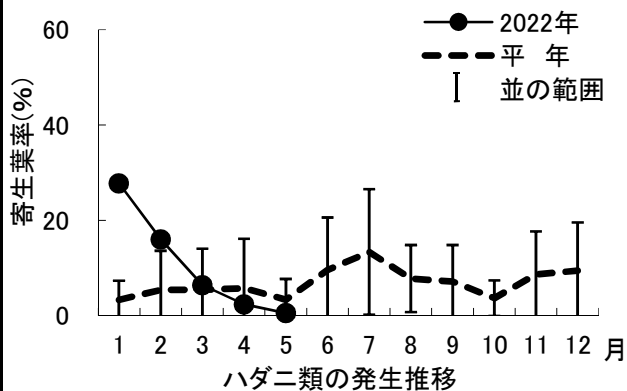
被害葉→



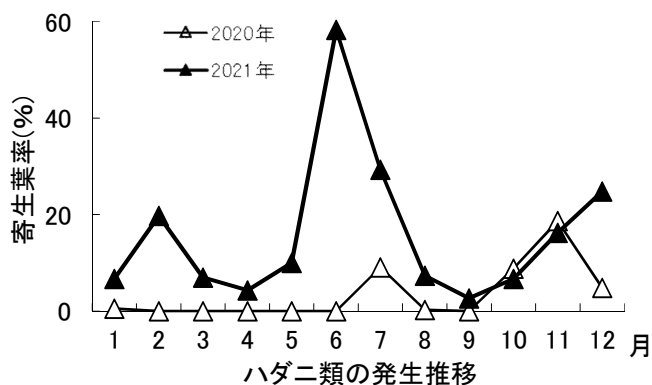
作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		 <p>ミカンハダニ</p>
調査結果	5 月の発生量（平年比）	並	
予報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

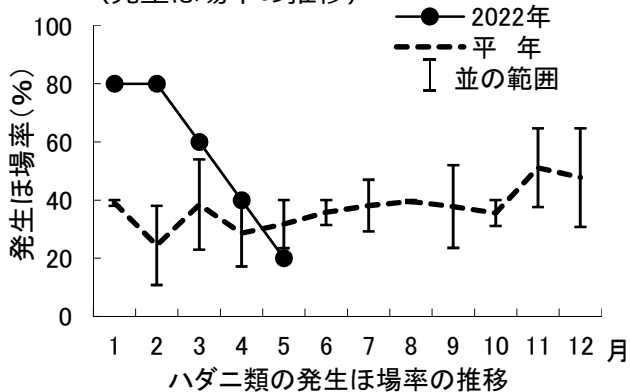
（今期と平年の推移）



（過去2年間の推移）



（発生ほ場率の推移）




防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

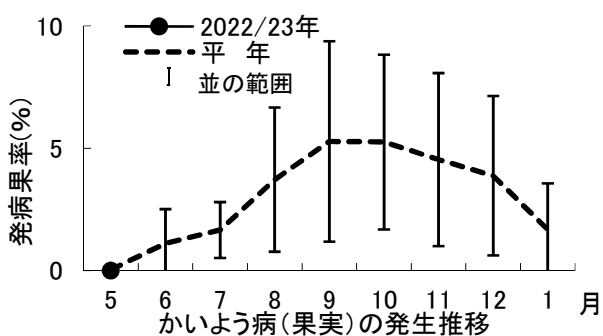


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

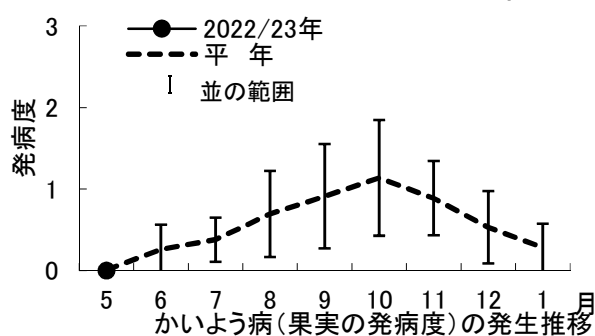
調査結果

(発病果率：今期と平年の推)

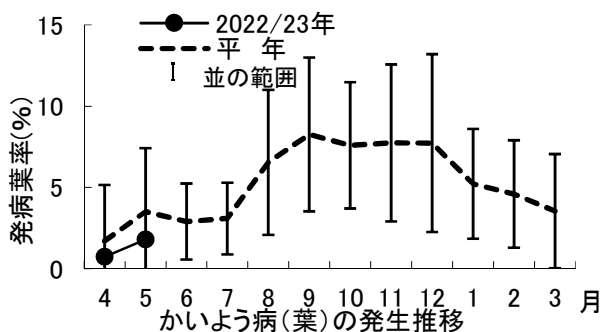


・ 発生ほ場率：80.0% (平年65.1%)

(果実の発病度：今期と平年の推移)

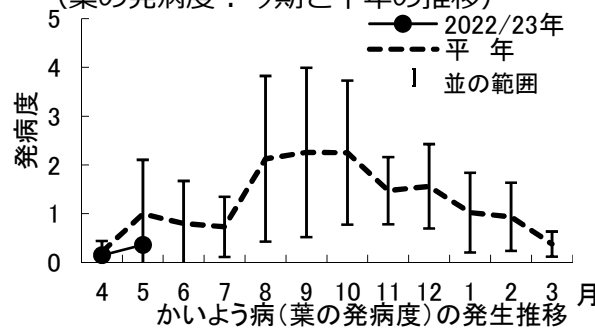


(発病葉率：今期と平年の推移)



・ 発生ほ場率：80.0% (平年87.5%)

(葉の発病度：今期と平年の推移)




防除のポイント

- ・ 罹病枝などの病斑が伝染源となる。
- ・ 台風による葉や枝の傷口 (風傷)、ミカンハモグリガの食害痕から本病が侵入する。
- ・ 台風前後に薬剤による予防散布およびミカンハモグリガの防除を徹底する。

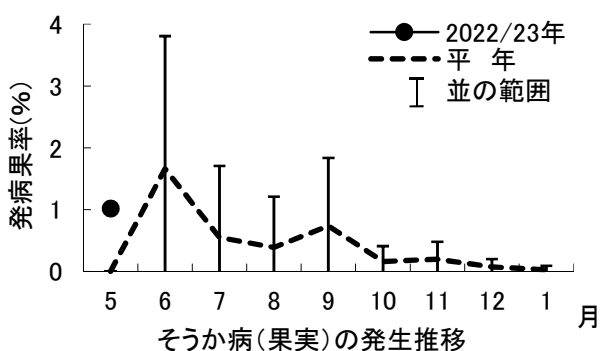


被害葉→

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	② そうか病		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	多	
予報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗) 一部ほ場で発生がみられた	

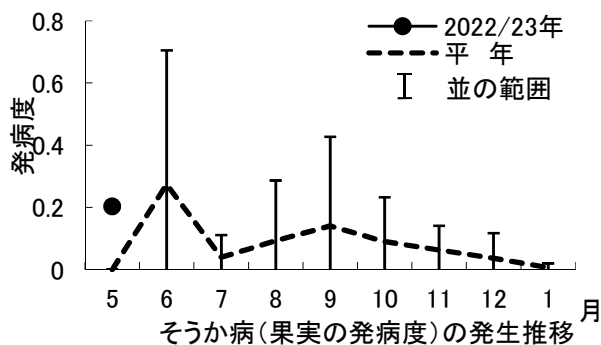
調査結果

(発病果率：今期と平年の推)

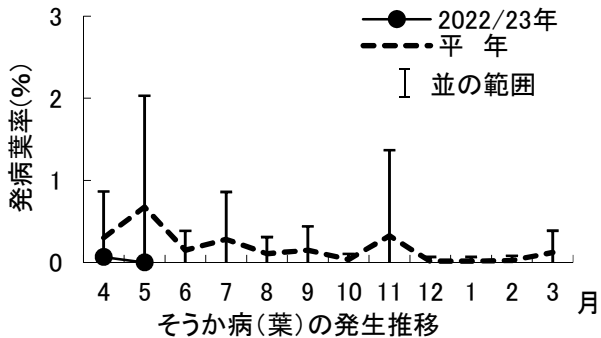


・発生ほ場率20.0% (平年0.0%)

(果実の発病度：今期と平年の推移)

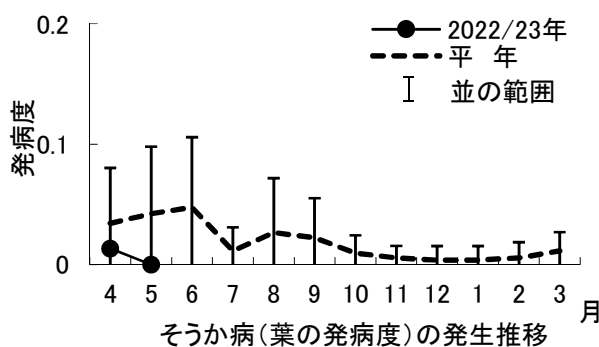


(発病葉率：今期と平年の推移)



・発生ほ場率0.0% (平年25.6%)

(葉の発病度：今期と平年の推移)




防除のポイント

- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

被害葉→

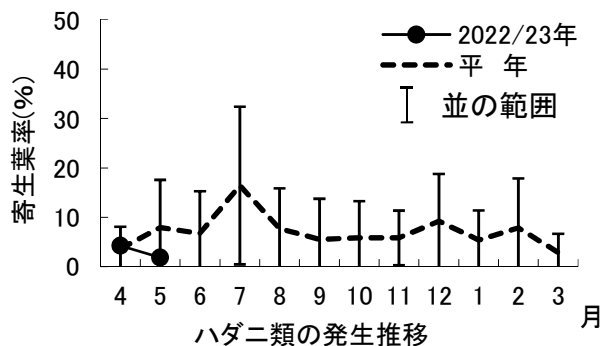




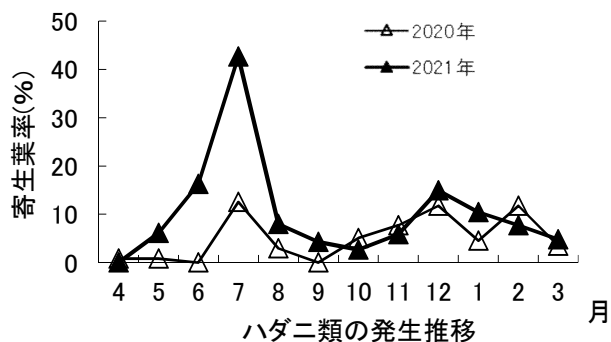
作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		
調査結果	5 月の発生量（平年比）	並	
予報	5 月からの増減傾向	↓	
		6 月の発生量（平年比）	並
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果

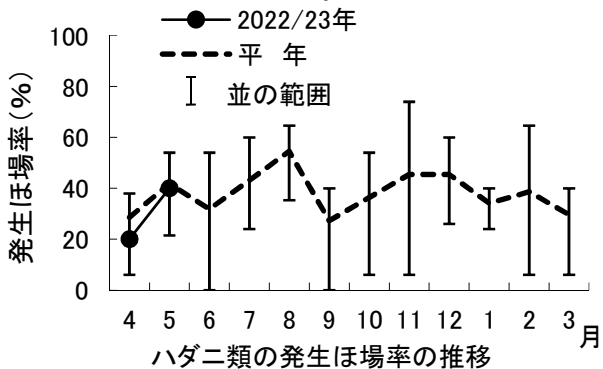
(今期と平年の推移)



(過去2年間の推移)



(発生ほ場率の推移)




防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

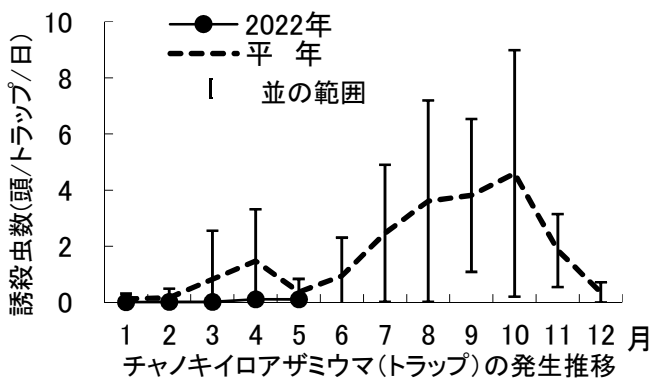


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

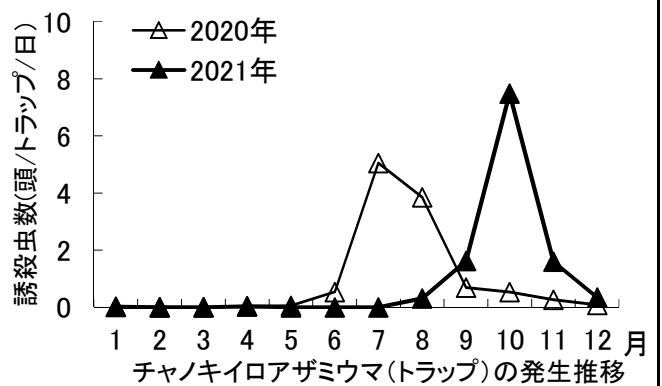
作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

トラップ調査 (平均値と平年値)



(過去2年間の推移)




・発生施設率 : 75.0% (平年値 : 78.9%)

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

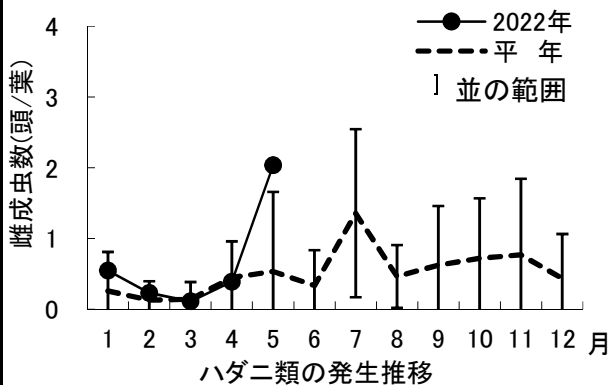


ナガエコミカンソウ

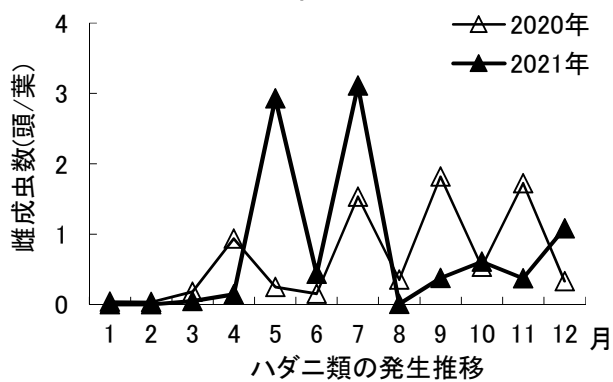
作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	5 月からの増減傾向	↓	
		6 月の発生量 (平年比)	やや多
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

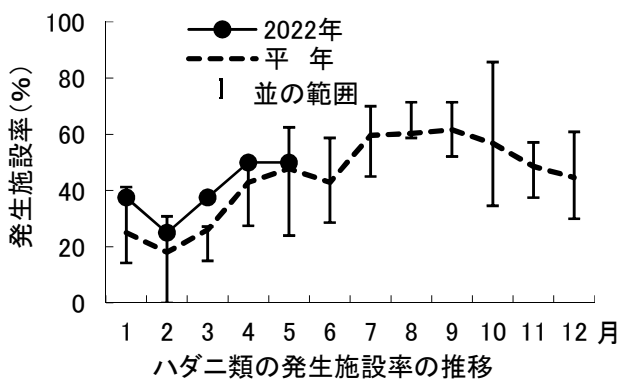
(今期と平年の推移)



(過去2年間の推移)



(発生施設率の推移)



発生種: シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ

防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

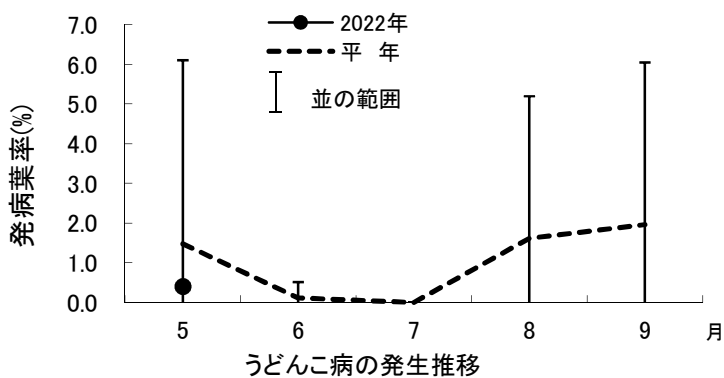


ハダニの寄生による葉のかすれ症

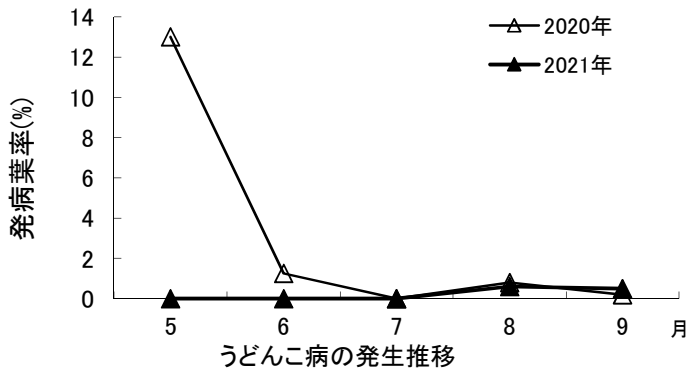
作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	5 月からの増減傾向	↓		
	6 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠			平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の推移



過去 2 年の推移



・発生ほ場率20.0% (平年45.0%)

防除のポイント

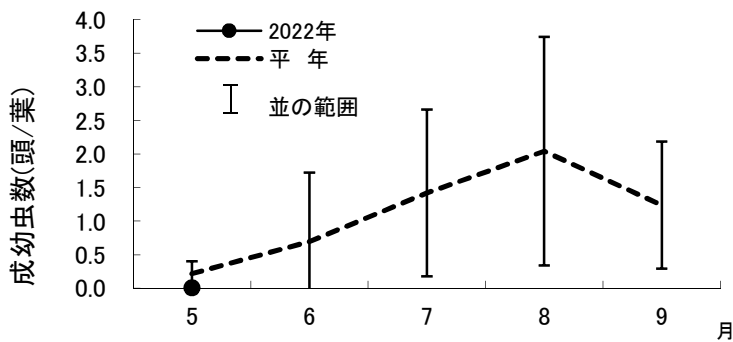
- ・下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	



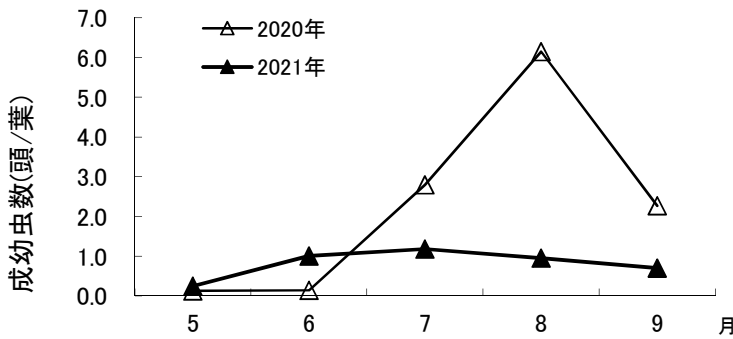
調査結果

今期と平年の推移



フタテンミドリヒメヨコバイの発生推移

過去 2 年の推移



フタテンミドリヒメヨコバイの発生推移

・発生ほ場率20.0% (平年63.6%)

防除のポイント


・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



幼虫

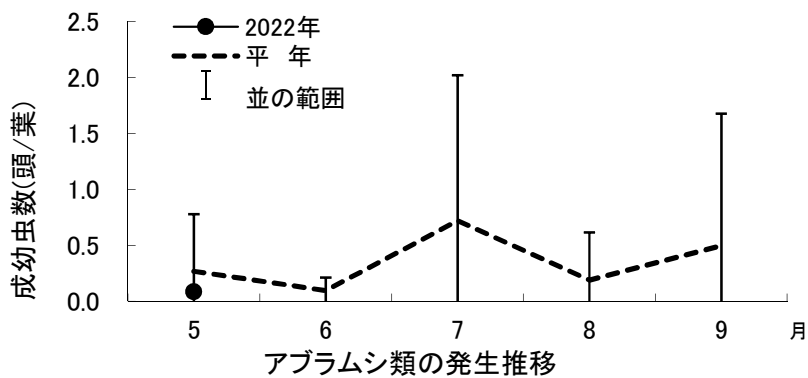


被害葉

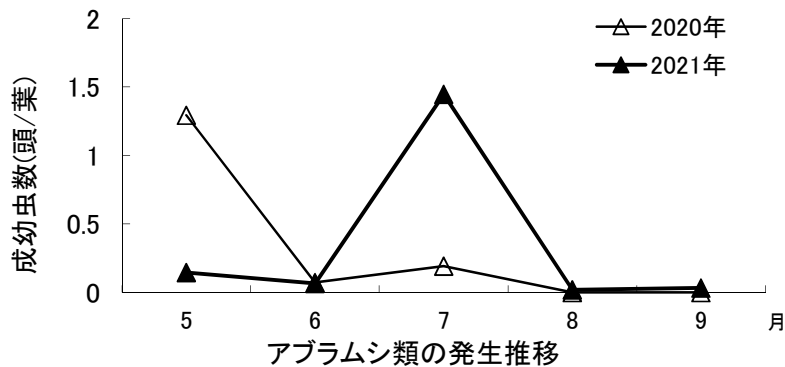
作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	② アブラムシ類			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報	5 月からの増減傾向	↘		
	6 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠			平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年の推移



・発生ほ場率40.0% (平年38.6%)

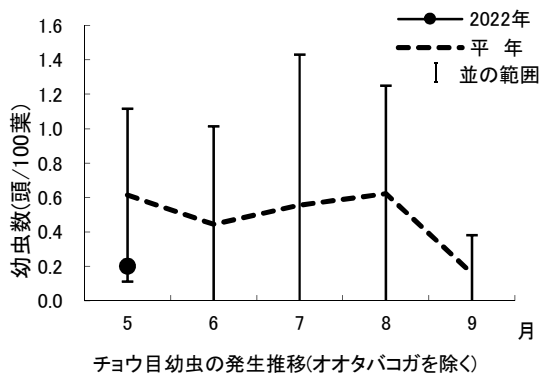
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

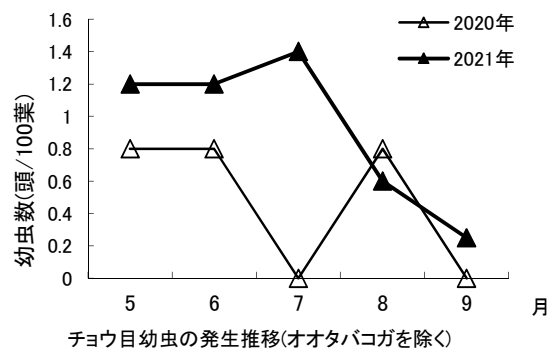
作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	③ チョウ目幼虫(オオタバコガを除く)			 <p>ハスモンヨトウ</p>
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報	5 月からの増減傾向	↓		
	6 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠			平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の推移



過去 2 年の推移



- ・発生ほ場率20.0% (平年36.4%)
- ・発生種 : ハスモンヨトウ

防除のポイント

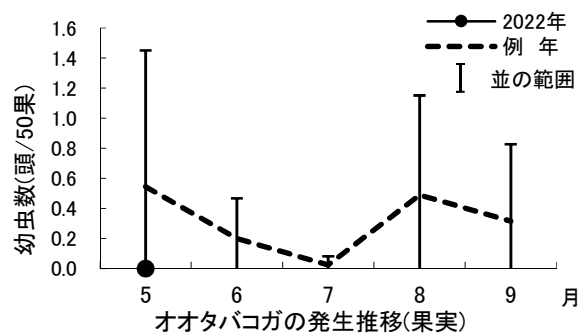
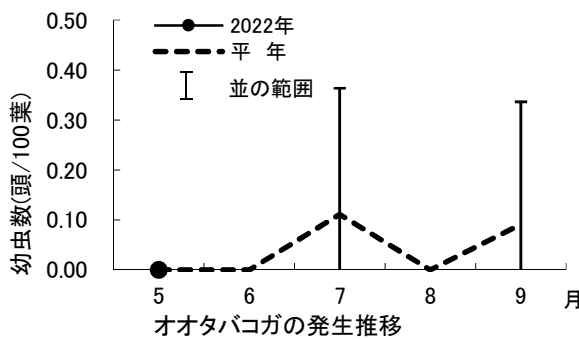
- ・ほ場をよく観察し、幼虫の早期発見に努め、見つけ次第捕殺する。
- ・葉裏や巻き葉内の幼虫に対しては薬剤効果が低下するため、葉にかすり状等の食害痕が見られたら、速やかに薬剤散布を行う。



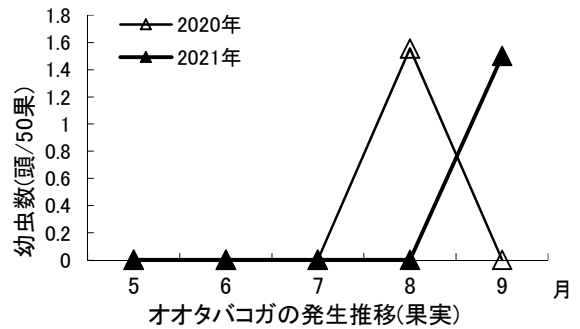
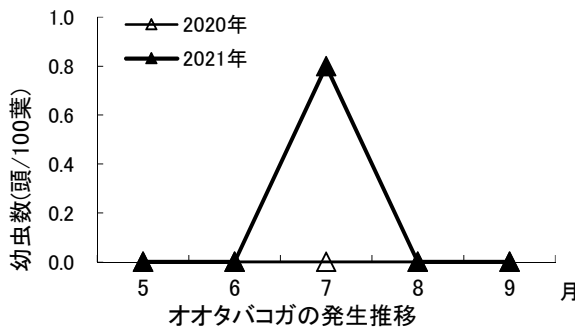
作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	オオタバコガ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	5 月からの増減傾向	→	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移



・発生ほ場率0.0% (平年 0.0%)

防除のポイント

- ・ほ場をよく観察し、幼虫の早期発見に努め、見つけ次第捕殺する。
- ・中齢幼虫以降になると蕾・果実内に食入するため、食入前の若齢幼虫のうちに薬剤防除する。
- ・被害果や摘芯、摘花した腋芽・花蕾等の残さは、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。

若齢幼虫→



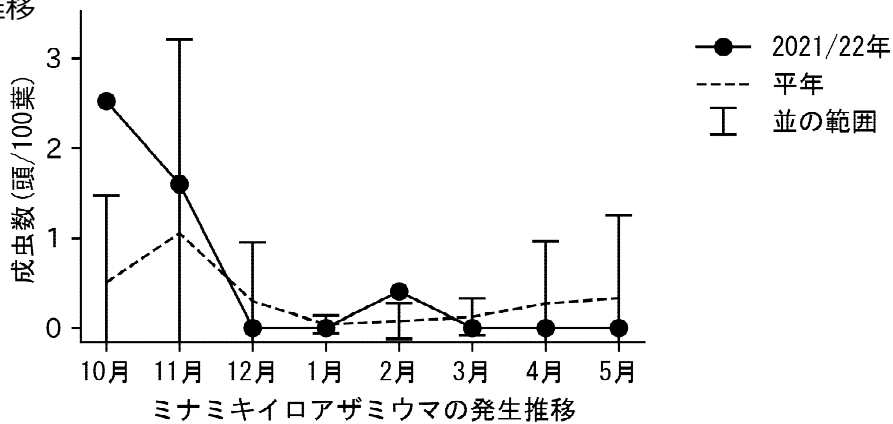


作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

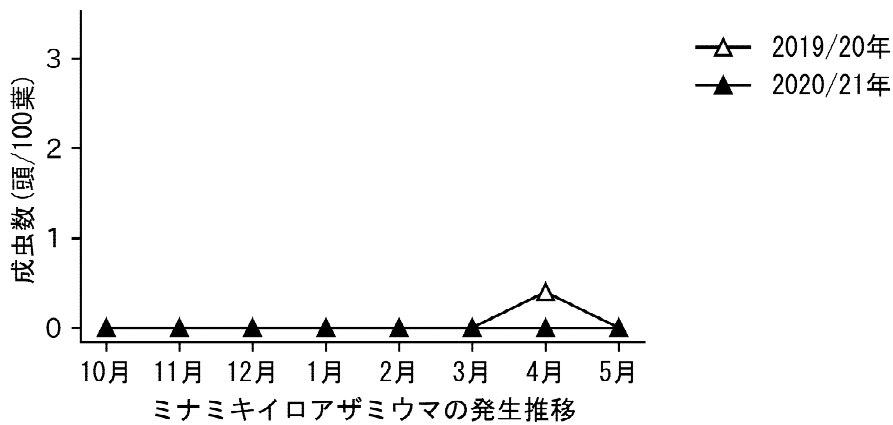


調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移



・発生施設率0% (平年：5%)

防除のポイント

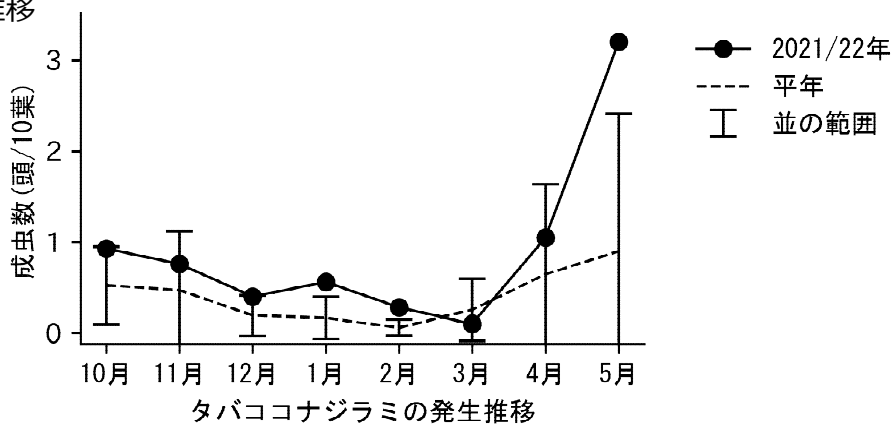
- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス及びトウガラシ退緑ウイルスを媒介する。
- ・施設の開口部には防虫ネットを張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い早期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	5月の発生量(平年比)	やや多	
予報	5月からの増減傾向	—	
	6月の発生量(平年比)	—	
予報の根拠			

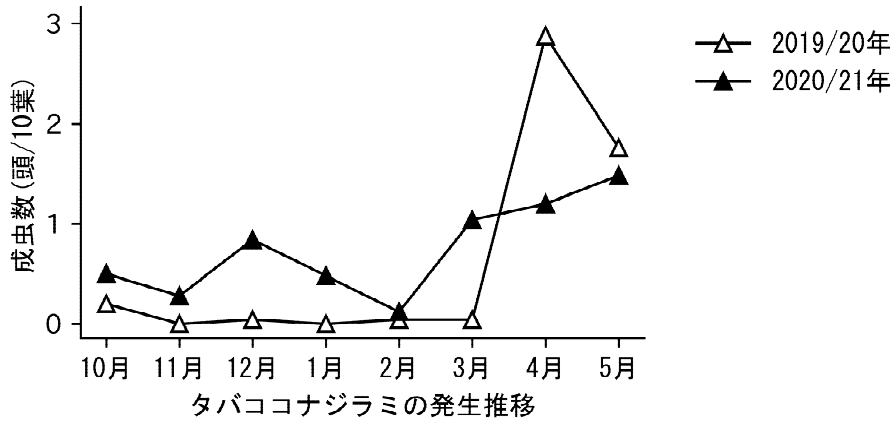


調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移



・発生施設率100% (平年: 40%)

防除のポイント

- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・本種は、多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

